

誰もが幸せを実感できる

「東京都男女平等参画推進総合計画」が目指すもの

東京都は「すべての都民が、性別にかかわらず個人として尊重され、男女が対等な立場であらゆる活動に参画し、責任を分かち合う男女平等参画社会の形成」を目指し、「東京都男女平等参画推進総合計画（平成29～33年度）」を策定しました。

女性の活躍推進に関する社会の気

運は大きく高まり、先進的な取組も増えてきました。しかし、対応すべき課題もまだまだあります。

国際的に見て、日本の女性の活躍は十分とはいえません。世界経済フォーラムが発表する「ジェンダー・ギャップ指数」（各国の男女格差を測る指標）において、日本の順位は144か国中111位（2016年）と、下位にあります。

就労の分野では、男女の賃金格差が改善されず、女性の就業についても、結婚・出産・子育て期に労働力率が低下する“M字カーブ”が続いています。一方で、東京都の合計特殊出生率は1.24（2015年）と、全国で最低水準にあります。少子化とあいまって、高齢化の進行も顕著です。

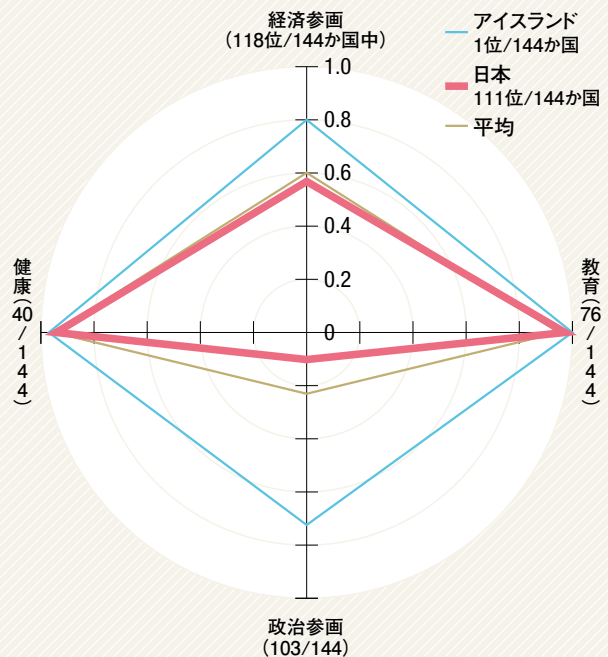
このような時代だからこそ、性別や年齢を問わず、誰もがその個性と

ジェンダーギャップ指数
主な国の順位（2016年）

順位	国名	値
1	アイスランド	0.874
2	フィンランド	0.845
3	ノルウェー	0.842
4	スウェーデン	0.815
5	ルワンダ	0.800
6	アイルランド	0.797
7	フィリピン	0.786
8	スロベニア	0.786
9	ニュージーランド	0.781
10	ニカラグア	0.780
...
13	ドイツ	0.766
...
17	フランス	0.755
...
20	英国	0.752
...
35	カナダ	0.731
...
45	アメリカ	0.722
...
50	イタリア	0.719
...
75	ロシア	0.691
...
99	中国	0.676
...
111	日本	0.660
...
116	韓国	0.649

資料：内閣府男女共同参画局ホームページより

ジェンダーギャップ指数 各分野の日本の順位と比較（2016年）

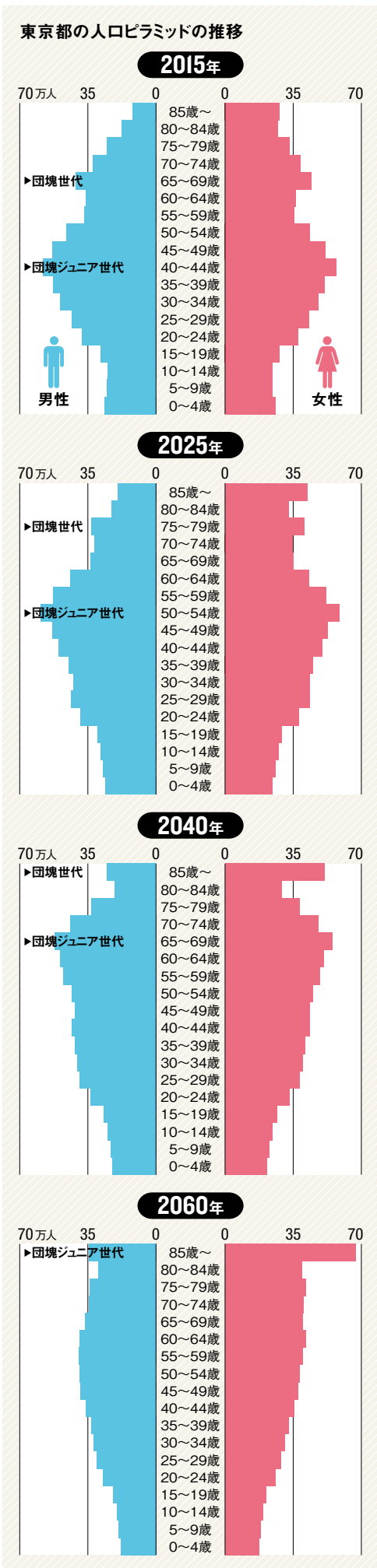
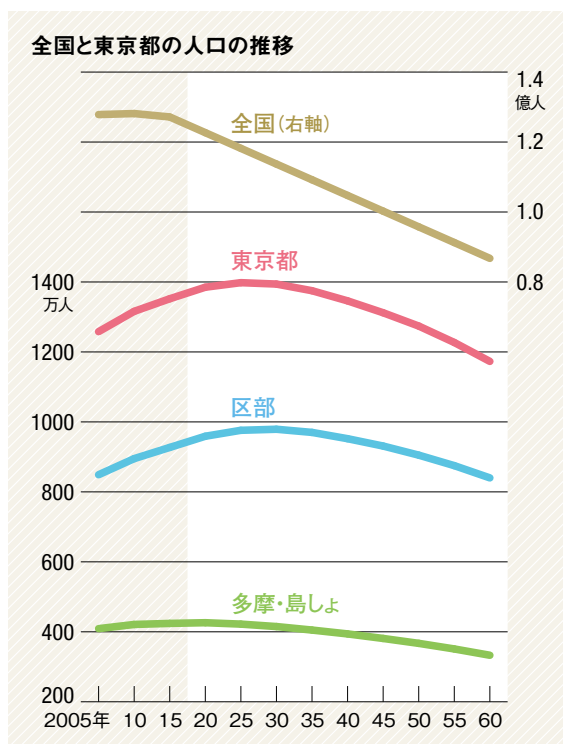


都市へ

能力を存分に発揮できる男女平等参画社会の実現がより一層重要です。労働力人口が減少する中、従来のように「仕事か、家庭・個人の生活か」という二者択一を前提とする働き方を見直す必要もあるでしょう。

生活と仕事の調和がとれ、女性が活躍できるチャンスが広がることは、社会全体に意識の変革をもたらし、女性だけでなく男性にとっても大きな影響を与えます。こうした社会をつくっていくことで、東京都の持続的成長を支えると同時に、人々の多様性や人権が尊重され、誰もが幸せを実感できる都市を実現していくことができます。

この冊子では、そのような背景から策定された「東京都男女平等参画推進総合計画」に掲載されている、具体的な取組を紹介していきます。



左
資料: 都民ファースト
でつくる「新しい東京」
～2020年に向けた
実行プラン～

右
資料: 都民ファースト
でつくる「新しい東京」
～2020年に向けた
実行プラン～